



丘灯至夫記念館には、丘先生からの数多くの寄贈品が展示されています

西山家の6男として誕生

先生は大正6年2月8日に西田屋旅館の西山亀太郎・モトの6男として誕生しました。幼少期を小野町で過ごし、後に家族で郡山市へ移りました。郡山市金透小学校を卒業し、昭和7年には郡山市立郡山商工学校(現・福島県立郡山商業高等学校)の商業科を卒業。その後「花茂」(東京三田)に就職をします。



郡山市立郡山商工学校卒業時の丘先生

西条八十との出会い

東京で就職した折に、日本を代表する詩人・作詞家の西条八十の主筆する雑誌『蝸人形』に出会い、師事することになります。

しかし、体が弱かった先生は医者のおすすめで故郷・福島に戻るようになります。

福島へ帰郷後は

福島に帰郷した後、NHKが福島市と郡山市に放送局を開局したことを機にNHKに入局しました。その後、毎日新聞社に入社し福島支局記者として勤務し、昭和23年に東京本社出版局に転勤しました。

本格的に作詩活動を

翌年には日本コロムビアの専属作詩家となり、霧島昇の歌う「母燈台」がヒットし、本格的な作詩活動が始まりました。

また、このころから福島市出身の作曲家・古関裕而との作品を多く発表しています。「あこがれの郵便馬車」「高原列車は行く」など「乗り物シリーズ」と呼ばれる作品の数々は、今もなお歌い継がれています。

日本レコード大賞作詩受賞

また、昭和38年には遠藤実作曲、舟木一夫の歌で『高校三年生』が大ヒットしました。そしてこの『高校三年生』で日本レコード大賞作詩賞を受賞されています。



「高校三年生」で日本レコード大賞作詩賞を受賞
丘灯至夫記念館に飾られている賞状とトロフィー